

式辞

少し前まで、気嵐が立ち込めていた宇和川の水面に、暖かな日差しが揺らぎ、春を予感させる今日の佳き日に、愛媛県議会議員 兵頭竜様をはじめ、多数の御来賓の御臨席を賜り、令和六年度愛媛県立野村高等学校第 76 回卒業証書授与式を、かくも盛大に挙行できますことは、大きな喜びであります。本日、御臨席賜りました全ての皆様に、心から厚くお礼申し上げます。

保護者の皆様、本日は誠におめでとうございます。皆様がこれまで大切に慈しみ、立派にお育てになったお子様の高等学校卒業という節目を迎えられたことに、心よりお喜び申し上げます。

卒業証書を手にした卒業生の皆さん、卒業おめでとう。皆さんとは一年間しか学校生活を共にできませんでしたが、学校行事や部活動、地域行事などで、いきいきと活躍する姿を目の当たりにし、皆さんから元気をもらっていました。皆さんはこの野村高校でさまざまな経験を積み重ね、今日こうして卒業の日を迎えました。時には辛いこともあったでしょう。悔し涙を流した日もあったかもしれません。しかし、皆さんの中には「野村イズム」が育まれていると信じています。

先日、野村町に惚れこみ、結婚を機にこちらに定住した、という方にお会いしました。野村町には、この町が育んできた地域力に魅せられている人がたくさんいらっしゃいます。何といても、人と人が支え合うコミュニティが存在し、都会では味わえない近所づきあいなどの豊かな経験ができることが野村町の魅力です。そのような地域で温かく見守られながら、皆さんの中に備わった力、それが「野村イズム」です。

卒業生の皆さんは、大学への進学や社会への進出に伴い、新しい生活を始めることでしょう。ただ、現代ではグローバル化が我々の社会に多様性をもたらし、急速な情報化やAIなどの技術革新が人間生活を質的に変化させ、将来を予測することが非常に困難になっています。だからこそ、皆さんは今まで以上に、自らの人生をどのように切り拓いていくかについて、自分の力で模索していく必要があります。混沌とした不確実性の中にある未来に、今まで以上に不安を感じている人もいることでしょう。しかし、人との関わりが鍵となる職種、それには人間の温かみや共感が必要不可欠です。また、倫理的な判断が求められる仕事、ソーシャルスキルが必要な仕事、イノベーションを起こす仕事などにも、「人間にしかない」創造性や「人間にしかできない」複雑な判断力などが必ず必要になります。そして、この「人間にしかない」かけがえのない力は、皆さんの中に「野村イズム」として身に付いています。この「野村イズム」を身に付けた皆さんならば、いつか目の前に困難が生じたとしても、それに負けることなく、自分の力で乗り越えることができるはずです。

本校の校訓「美しく 新しく 逞しく」はこれからの時代を生きる皆さんの在り方を的確に表現しています。既存の考えに固執するのではなく、「新しい」見方や価値観を常に養い、立ちはだかる困難を「逞しく」乗り越えることで、皆さんはさらに成長することでしょう。大学や社会で新たな経験をする中で、何があろうとも、自分を信じ、数々の逆境は成長できるチャンスだと思い、立ち向かう勇気を持って常に前向きに取り組む「美しい」生き様を刻んでいってください。皆さんの卒業は、一つの終わりではなく、新たな始まりです。未来への扉を開く皆さんに、最大限のエールを送ります。どうか、夢に向かって果敢に挑戦し続けてください。そして、いつの日か、この野村高校で見せてくれた輝く笑顔で、逞しく成長した皆さんと再会できることを楽しみにしています。

どうか、お身体を大事に、命を大切に、皆さんの今後の御活躍と幸福を切に願って、門出を祝う式辞といたします。

令和七年三月一日

愛媛県立野村高等学校長 松井 由紀子